
第3次 富山市総合計画
一基本構想(案)

<令和8年2月1日時点>

基本構想

第Ⅰ部 総合計画の概要／3

- 1 総合計画策定の趣旨／3
- 2 総合計画の位置付け／3
- 3 総合計画の構成と期間／4

第Ⅱ部 富山市を取り巻く環境と課題／5

- 1 わが国を取り巻く状況と富山市における方向性／5
- 2 富山市の人口の将来見通し／7

第Ⅲ部 基本構想／9

- 1 将来の都市像／9
- 2 10年後の市民が実感している幸せ—分野別のありたい姿／11
- 3 富山市の暮らしを支える都市のかたち／27

市長あいさつ

第Ⅰ部 総合計画の概要

1 総合計画策定の趣旨

これまで富山市は、人口減少が大きな課題となる前から強い危機感を抱き、全国に先駆けて「公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくり」を中心施策に据え、第2次総合計画に基づき、総合力の高いまちづくりに取り組んできました。

一方、富山市を取り巻く環境は近年大きく変化し、市に求められる行政需要がますます高度・複雑化するなか、課題も多様化しています。

少子高齢化や人口減少の進行に伴う地域のつながりの希薄化、担い手不足、そして価値観の多様化による合意形成の困難化など、私たち一人ひとりの生活に直結する「ひと」に関する問題が次々と生じています。

また、空き家や空き地の急速な増加や老朽化するインフラ、化石燃料に依存したエネルギー構造、そして頻発する自然災害など、暮らしの土台に直結する「まち」の問題も山積しています。

これらの問題に対応するためには、これまでの取組を継承しつつ、スマートシティ政策によるDXの推進を軸に、さらに発展・深化させ、様々な施策を効率的に実施していくことが必要です。

これからの富山市が、多くの人を惹きつける魅力ある都市として輝き、多くのひとが自分らしく幸せを感じ、その幸せを未来へと引き継ぐ都市となるため、第3次富山市総合計画を策定します。

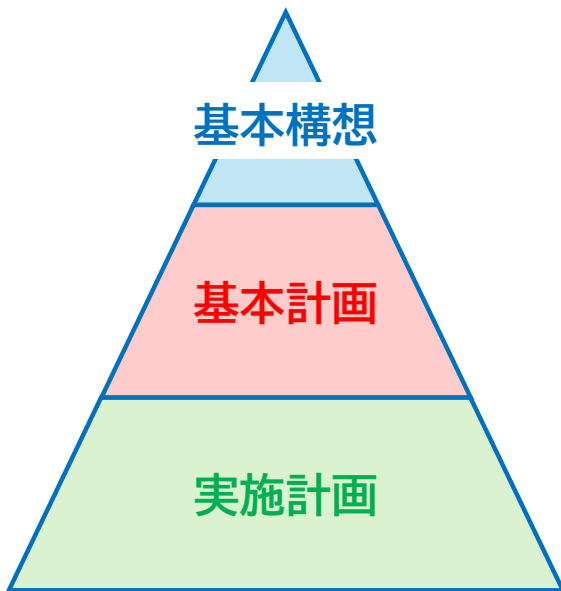
2 総合計画の位置付け

富山市のまちづくりにおける長期的かつ基本的な方向を示すものであり、目指すべき都市の将来像を明らかにし、その実現に向けた行動の指針として位置づけます。

また総合計画は富山市の最上位に位置付けられる計画です。そのため各種個別の計画においては、本計画の内容を遵守するとともに、既存の計画については必要に応じて見直すものとします。

3 総合計画の構成と期間

総合計画は「基本構想」、「基本計画」及び「実施計画」で構成します。



(1)基本構想

基本構想では、長期的な展望のもとに将来の都市像と、市政における分野別のありたい姿(ビジョン)を示します。令和9年度を初年度とし、令和18年度を目標年次とします。

(2)基本計画

基本計画では、基本構想を実現するため、施策の体系化を行い、現況と課題を整理し、施策の内容、目標とする指標を示します。令和9年度から令和13年度までの5か年を前期計画、令和14年度から令和18年度までの5か年を後期計画とします。

(3)実施計画

実施計画では、基本計画で定める施策体系に基づき、具体的な事業の年次計画等を示します。基本計画に沿って、前期・後期計画の各5か年計画をローリング方式により毎年見直ししながら、実効性の確保に努めるとともに、諸情勢の変化に的確に対応した計画を策定します。

第3次総合計画の期間は令和9年度から令和18年度までの10か年とします。



1 わが国を取り巻く状況と富山市における方向性

わが国を取り巻く状況は、社会・経済・環境など幅広い分野で変化しつづけています。第3次総合計画では、これらの変化に対応できる計画とする必要があります。

少子高齢化の進行

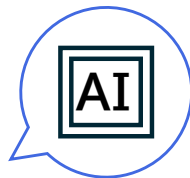


当面は高齢者人口が増加し、年少人口と生産年齢人口は減少が加速するため少子高齢化が進行

これからの方向性

持続可能なまちづくりにはデジタル技術の活用による「コンパクトなまちづくり」を深化させる必要があります。

最新技術への対応



AIをはじめとしたデジタル技術の急速な進歩と、日本の行政におけるデジタル化の遅れ

これからの方向性

地域課題解決や行政運営の効率化を実現するため、DXやGXの取組を推進する必要があります。

激甚化する災害



甚大な被害をもたらす地震や台風、集中豪雨など大規模自然災害が多発

これからの方向性

防災に向けた基盤整備や「自助・共助・公助」の災害対策、災害時に迅速に対応できる体制構築が必要です。

公共施設の老朽化



高度成長期に整備された公共施設やインフラについて、全国で一斉に更新時期が到来

これからの方向性

社会インフラの長寿命化や更新に向けて、緊急度・重要度を踏まえた賢い対策が必要です。

脱炭素社会への取組



パリ協定に基づき、わが国においても2050年までの温室効果ガス排出実質ゼロが目標

これからの方向性

地域が一体となり脱炭素社会の実現に向けた取組が必要です。

こどもまんなか社会



令和5年度、こども家庭庁が発足し「こどもまんなか社会」の実現を宣言

これからの方向性

「こどもまんなか応援サポーター」を宣言している富山市においても、こどもを中心に据えた施策の展開が必要です。

多文化共生



国籍や文化の多様化が進む中、互いの違いを認め合う多文化共生の社会づくりが課題に

これからの方向性

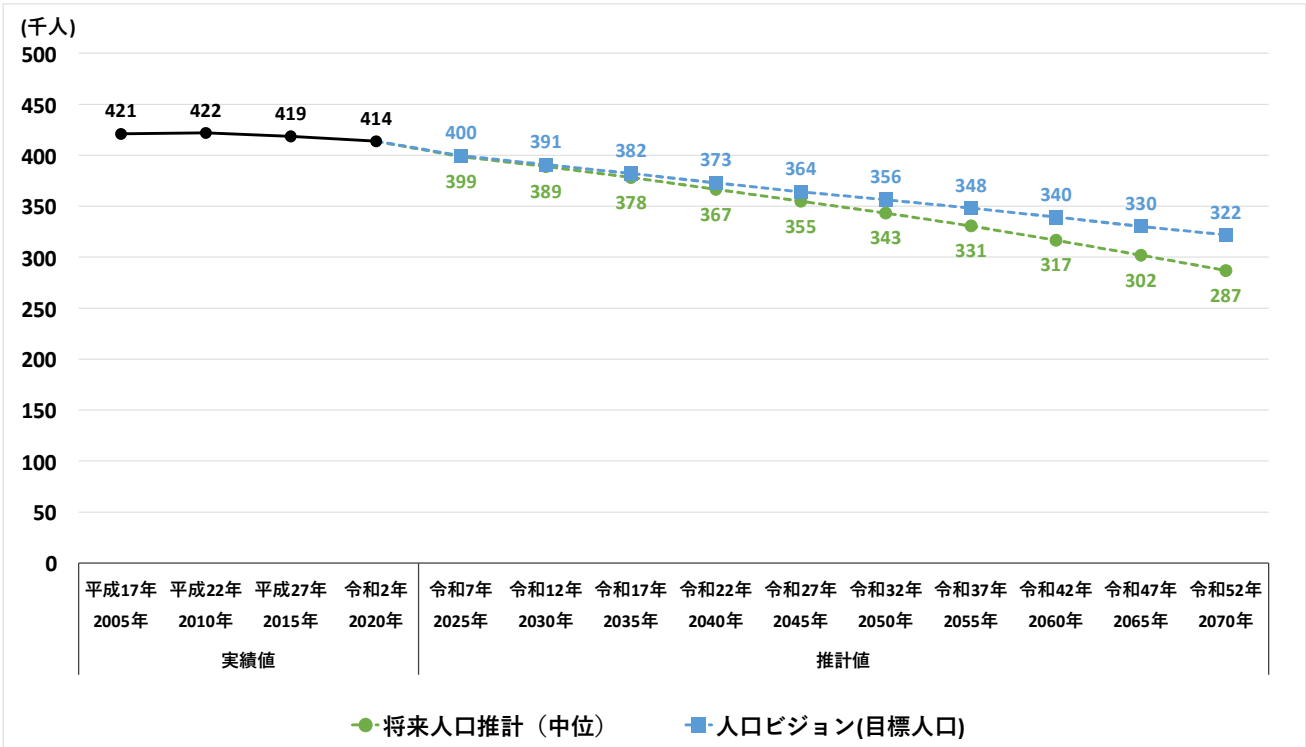
国や県とも連携しながら、多文化を尊重し、誰もが暮らしやすい社会づくりに取り組むことが必要です。

2. 富山市の人口の将来見通し

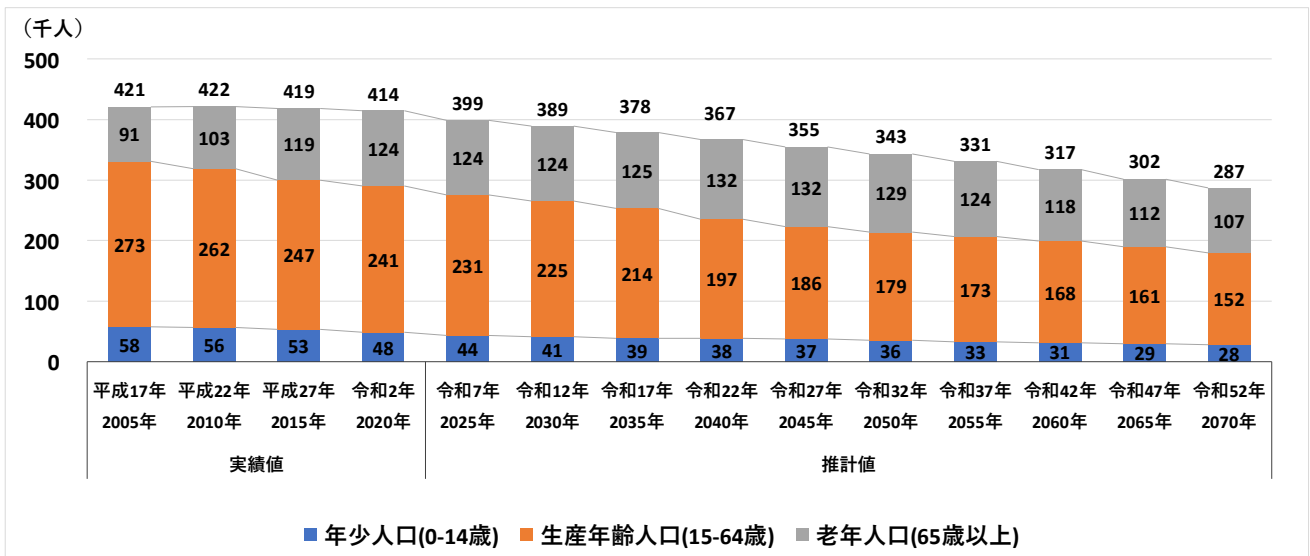
- 富山市の人口は平成22(2010)年の約42万2千人をピークに減少に転じており、将来人口推計によると令和52(2070)年には約28万7千人と30万人を下回ることが見込まれています。
- 富山市が令和7(2025)年3月に策定した「富山市人口ビジョン」では、令和52(2070)年に人口32万人程度を目標人口として設定しています。
- 「富山市人口ビジョン」では、目標人口達成に向けて、出生率を令和22(2040)年までに1.74、令和42(2060)年までに人口置換水準の2.07を目指す必要があるとしています。

上段: 人口の将来見通し

下段: 年齢3区分別の人口構成比



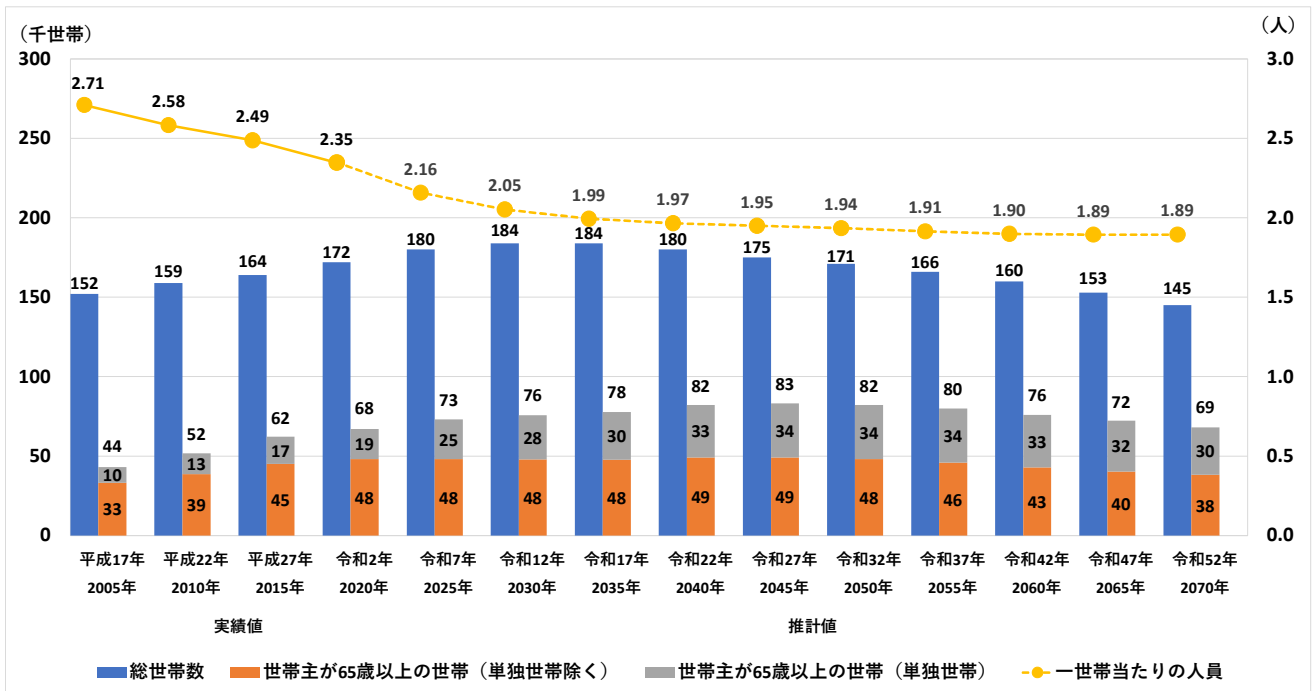
- 年齢構成別人口は年少人口(0-14歳)・生産年齢人口(15-64歳)の減少が続く一方で、高齢者人口(65歳以上)は令和27(2045)年まで増加が続くと見込まれています。



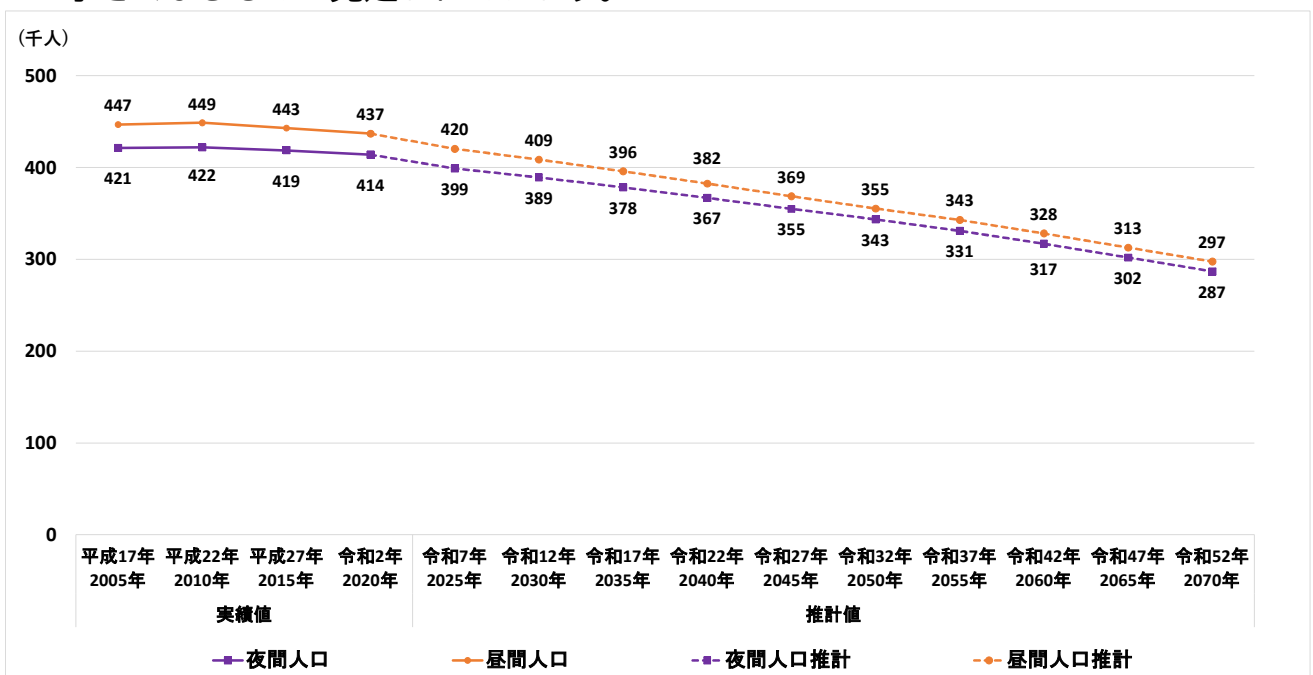
※数値は四捨五入しているため合計が一致しない場合があります
 出典: 富山市将来人口推計報告書、富山市人口ビジョン

- 世帯数は令和12(2030)年までは増加傾向にあります。その後減少に転じ、令和52(2070)年には約14万5千世帯になると見込まれています。
- 世帯主が65歳以上の世帯は世帯数が減少に転じた以降も増加傾向にあります。令和27(2045)年には総世帯の半数の世帯主が65歳以上になることが見込まれています。
- 一世帯あたり人員数は核家族化・単身世帯等の増加により減少傾向にあり、令和17(2035)年には2人を下回ると見込まれています。

上段: 世帯数と一世帯あたり人員数の将来見通し
 下段: 昼夜間人口の将来見通し



- 昼間人口は平成22(2010)年から減少に転じており、昼間人口と夜間人口の差は小さくなるものと見込まれています。



※数値は四捨五入しているため合計が一致しない場合があります
 出典: 富山市将来人口推計報告書、富山市人口ビジョン

第Ⅲ部 基本構想

1 将来の都市像

将来の都市像

幸せ日本一のまち・とやま

— 誰もが挑戦でき、支え合い、生き活きと心豊かに暮らせる持続可能な都市へ

都市像を実現した未来スケッチ

「幸せ日本一のまち・とやま」を実現するため、「ひと」と「まち」の両輪から未来を描きます。

幸せ日本一のまち・とやま

— 誰もが挑戦でき、支え合い、生き活きと心豊かに暮らせる持続可能な都市へ



wheel 1 | ひと

誰もが自分らしく学び、
充実した日々の中で
富山での暮らしに誇りを持てる社会

wheel 2 | まち

暮らしやすく移動しやすい、
自然災害や社会変化にも
対応できる都市

将来の都市像に込めた思い

富山市がこれからの姿を描くにあたって、大切にしたいと考えたのは「幸せ」という言葉です。一人ひとりが「幸せ」と感じるからこそが、社会全体を支える力になるからです。

市民の皆さんにとっての「幸せ」とは何でしょうか。家族と安心して暮らすこと、やりたいことに挑戦できること、地域の仲間と支え合うこと…。一人ひとりの幸せが積み重なって、社会全体の幸せへと広がっていきます。富山市がめざすのは、そうした小さな幸せが循環し、大きな力となり、その幸せを未来へとつなぐ都市です。

その中心にあるのが「ひと」です。市民一人ひとりが安心でき、自分らしさを発揮し、人とのつながりの中で楽しみを見つけ、充実した日々を送ることが欠かせません。誰もが自分らしく学び、働き、富山の暮らしに誇りを持てる社会を目指します。

同時に、「まち」がその社会を支える基盤となります。交通や防災、美しい自然といった暮らしの土台が整い、先人たちが紡いできた伝統文化が守られ、新しい文化やにぎわいが育まれていくことが、市民の生活をより豊かにします。暮らしやすく移動しやすい、自然災害や社会変化にも対応できる、持続可能な都市を築いていきます。

「ひと」と「まち」の両輪がともに輝くとき、誰もが幸せを感じ、夢と希望を持って暮らせる、「幸せ日本一のまち・とやま」が実現します。

2 10年後の市民が実感している幸せ 一分野別のありたい姿

「ひと」と「まち」の両輪が輝く「幸せ日本一のまち・とやま」を、もう少し具体的にイメージしましょう。市政を14の分野に分けて、10年後の市民が実感している「幸せ」をみんなで考えました。

ひと

- 1 健康 医療 福祉
- 2 結婚 出産 子育て
- 3 地域コミュニティ
- 4 教育
- 5 スポーツ
- 6 郷土愛
- 7 行政 パートナーシップ

まち

- 8 都市 交通
- 9 防災 防犯
- 10 産業 雇用
- 11 農林水産
- 12 環境
- 13 観光 交流
- 14 文化 芸術



2036年
市民の
幸せ実感

困ったとき、助けてくれる人がいる。
この地域で暮らせて、幸せ。

幸せを実感できる未来スケッチ

① 市民が、自ら健康づくりに取り組み、いきいきと暮らしている。

運動や食生活改善などの生活習慣病予防や、検診の受診による早期発見・早期治療の取組が広がり、健康寿命が延びています。

② 地域の人々が、つながり合い、誰も孤立していない。

地域住民や地域の多様な主体のつながりが広がり、困りごとを抱える人も地域の中で安心して暮らしています。

③ 高齢者や障害のある人が、自分らしく、安心して地域で暮らし、活躍している。

高齢者や障害のある人に対して、介護や福祉サービスが整い、一人ひとりが尊重され、地域で役割を持ちながら生活しています。

④ 医療・保健・福祉が、切れ目なく連携し、誰もが住み慣れた地域で必要な支援を受けられている。

医療機関と保健・福祉・介護サービスが連携し、必要な支援の途切れがなく安心できる体制が整っています。

【姿のもとになった市民の声】

- ・ 10年後も、健康に家族と暮らしたいです。(オンラインプラットフォーム「とやまトーク」)
- ・ 困ったときに、手助けしてくれる人がいると安心できる未来になると思います。(富山市スマートシティ推進ビジョン／市民ワークショップ)
- ・ 障害のある人を含めた地域のイベントを実施して、常日頃から顔見知りになるようにしたい。(富山市地域福祉計画／地域懇談会)
- ・ 社会を支えてきた高齢者に、必要な支援が届く社会になってほしいです。(オンラインプラットフォーム「とやまトーク」)



2036年
市民の
幸せ実感

自分らしく描く未来への希望。
描いた希望が叶うって、幸せ。

幸せを実感できる未来スケッチ

① 若い世代が安心して結婚や出産を
考え、希望を叶えている。

経済的な不安や仕事と家庭の両立の課題を減らし、安心して家庭を築ける環境が整っています。

② 子どもが健やかに育ち、子育てに「喜
び」や「生きがい」を感じている。

安心して子育てができ、家庭や地域で子どもの成長を共に喜べる環境になっています。

③ 妊娠・出産から子育てまで、切れ目な
く安心して支援を受けられている。

妊娠期から子育て期まで、途切れることなくさまざまな相談や支援が受けられる体制が整い、子育て家庭の孤立を防いでいます。

④ 地域がつながり、子どもを安心して育て
られる「子育てにやさしいまち」になっ
ている。

地域や企業が協力し合い、子育て家庭を支える仕組みが広がり、こどもまんなか社会が実現しています。

【姿のもとになった市民の声】

- 結婚って楽しい！と思える社会になっているといいと思います。(富山市スマートシティ推進ビジョン／市民ワークショップ)
- 安心して妊娠、出産、子育てができるような社会になっていることを望みます。(オンラインプラットフォーム「とやまトーク」)
- 働く親が、小学生の子どもを安心して預けられる場所を作ってほしいです。(富山市こども計画／子ども・子育て支援に関するニーズ調査)
- 子どもが大きな声を出した時に、「子どもはそういうものだ」という対応をしてくれた時は安心しました。(富山市こども計画／子ども・子育て支援に関するニーズ調査)

2036年
市民の
幸せ実感先人たちが紡いだ地域の絆。
未来につなぐ、幸せ。

幸せを実感できる未来スケッチ

① 多様な人が、互いを認め、支えあっている。

世代や性別、国籍を超えて誰もが地域に居場所を持ち、安心して暮らしています。

② 地域の人材が、やりがいを持って地域を支えている。

ICTを活用した負担軽減を図りつつ、町内会や消防団、地域福祉活動などに積極的に参加し、防災や防犯をはじめとした自分の役割に誇りを感じながら活動しています。

③ コミュニティの拠点が、にぎわいを生んでいる。

公民館等に人が集まり、住民同士の交流や活動が広がり、地域に活気をもたらしています。

④ 地域の祭りや歴史、自然が、誇りとして受け継がれている。

地域の祭りや伝統文化が賑わいを見せ、世代を超えて故郷を愛する心が育まれています。

【姿のもとになった市民の声】

- ・「違っていても、それが良いね」と言える富山になってほしいです。(オンラインプラットフォーム「とやまトーク」)
- ・失敗をたくさん重ねるようなことも必要。失敗しても大丈夫だと、みんなが感じられるような社会になってほしい。(富山県未来共創セッション)
- ・おわら風の盆などの伝統文化は、担い手も減ってきているため、街並みと合わせて守っていくべきだと思います。(富山市都市マスタープラン／高校3年生WEBアンケート調査)
- ・その地域ならではのことが、形になっていることを期待します。(富山市スマートシティ推進ビジョン／市民ワークショップ)



2036年
市民の
幸せ実感

いつでも、どこでも、誰でも。
思うように学べるって、幸せ。

幸せを実感できる未来スケッチ

① 子どもが、自分の興味や得意を活かしながら学ぶことを楽しみ、将来に希望を感じている。

学びを楽しむことができる環境下で、主体性を育みながら自分の得意や好きなことを伸ばし、一人ひとりが自分らしい未来を思い描いています。

② 保護者や地域の人と学校が力を合わせ、子どもをみんなで育てている。

学校だけでなく、家庭や地域などみんなが子どもの教育に参加・協力して、子どもの豊かな成長を支える社会になっています。

③ 一人ひとりの子どもが、自分に合った学び方を選んでいる。

登校が難しい子どもを含め、すべての子どもが多様な学びの場の中から自分に合った環境を選び、安心して学んでいます。

④ 年齢に関係なく、誰もが学び続け、新しいことに挑戦している。

子どもから高齢者まで、学ぶ喜びをいつまでも感じることができています。

【姿のもとになった市民の声】

- 子どもの健康、発達によらず、のびのびと遊び、学ぶことが出来ていることを望みます。(富山市スマートシティ推進ビジョン／市民ワークショップ)
- 先生方の労働環境やメンタルヘルスにも配慮してほしいと思います。(富山市こども計画／子ども・子育て支援に関するニーズ調査)
- 家以外で勉強できる場所を作ってほしいです。やっぱり人と話すと大切だと思うから。(富山市こども計画／富山市子どもの生活実態調査)
- いくつになっても勉強し、学べるのが理想だと思います。(富山市スマートシティ推進ビジョン／市民ワークショップ)

2036年
市民の
幸せ実感

「する」のも、「観る」のも。
スポーツで盛り上がるって、幸せ。

幸せを実感できる未来スケッチ

① 誰もが自分に合ったスポーツを、気軽に続けて楽しんでいる。

子どもから高齢者まで、健康づくりや趣味として、スポーツやレクリエーション活動が日常にあります。

② 地元プロチームや国際大会を、家族や仲間と一緒に熱く応援している。

観戦を楽しむ人の輪が広がり、市外・県外から訪れるファンも増えています。応援する楽しさが地域の会話や交流を広げています。

③ スポーツを支える(育てる)人たちが、やりがいを持って活動している。

スポーツ指導者の力により、初心者からプロを目指す人まで、より楽しくスポーツできています。

④ スポーツを通して、多くの人が集い、つながり、交流している。

地域のスポーツ情報がすぐに分かり、コミュニティやまちなかのアリーナなどに多くの人が集まっています。

【姿のもとになった市民の声】

- 一緒にスポーツする仲間がいると嬉しいです。(富山市スマートシティ推進ビジョン／市民ワークショップ)
- スポーツチームと一体になれると、楽しいと思います。(富山市スマートシティ推進ビジョン／市民ワークショップ)
- 富山の選手がトッププレイヤーになると、その競技の関心度が上がる。競技力が向上することで、富山のスポーツが盛り上がると思う。(オンラインプラットフォーム「とやまトーク」)
- スポーツに力を入れていることは市民の活気にもつながると思います。(市民意識調査)



2036年
市民の
幸せ実感

「AMAZING TOYAMA」が、ここにある。
富山に生まれて、幸せ。

幸せを実感できる未来スケッチ

① 富山の魅力が、戦略的に発信されている。

富山ならではの魅力が効果的に伝えられ、暮らしたい、訪れたいと思われる「選ばれ
るまち」になっています。

② 市民が、誇りを持って郷土を語っている。

富山の良さを自分の言葉で語り、日常の中
から「AMAZING TOYAMA」を発信
しています。

③ 郷土愛が、世代を超えて育まれている。

学校・家庭での教育や地域活動を通じて、
子どもから大人まで、まちを大切に思う
心を共有しています。

④ 郷土への共感が、内外で広がっている。

市民と市外の人々との交流を通じて、富
山への愛着やつながりが強まり、関係人
口が増えています。

【姿のもとになった市民の声】

- 10年後、自分にとって「自慢の富山」にしたいです。(オンラインプラットフォーム「とやま
トーク」)
- 住んでいる地域の自慢ポイントはココ！と言えるようになりたい。(富山市スマートシティ推
進ビジョン／市民ワークショップ)
- 富山の人、実は富山のことをあまり知らない人が多いと思います。それを変えていきた
いです。(富山県未来共創セッション)
- 息子が夏休みの宿題で富山城の絵を描いた時に、ふと自分も子供の時に書いたことを思い
出し、些細な幸せを感じました。(オンラインプラットフォーム「とやまトーク」)

2036年
市民の
幸せ実感幸せ日本一のまち。
オール富山で創る、幸せ。

幸せを実感できる未来スケッチ

① 市民と行政が、共にまちを創っている。

声を上げやすく、まちづくりに参加しやすい仕組みの中で、市民と行政が一緒にまちを創っています。

② 公共施設が、賢く使われ未来につながっている。

学校やホール、スポーツ施設などがこれからの時代に合うよう見直され、官民連携や市民協働で持続的に活用されています。

③ 多様な主体が、力を合わせて未来をつないでいる。

富山県や大学、企業等と行政が手を取り合い、連携の力で持続可能なまちづくりを進めています。

④ 職員が、チャレンジを楽しみながら成長し続けている。

全ての職員が市民とともに考えながら、前例にとらわれず挑戦し、多様化する課題に柔軟に取り組んでいます。

【姿のもとになった市民の声】

- 誰かが作ったまちを受け取るのではなくて、自分たちで創っていきんだと思います。(富山県未来共創セッション)
- 公共施設が気軽に使えるようになって良いと思います。(富山市スマートシティ推進ビジョン／市民ワークショップ)
- 若い職員が、自分達の感性で未来の富山をデザインしてほしい。(オンラインプラットフォーム「とやまトーク」)

2036年
市民の
幸せ実感

コンパクトシティといえば富山。
便利なまちに住めるって、幸せ。

幸せを実感できる未来スケッチ

① 公共交通が、暮らしの真ん中で頼りにされている。

コンパクトシティの推進で電車やバスが便利につながり、多くの人が公共交通沿線に住むことで、車に過度に依存しない生活ができるまちになっています。

② まちの拠点が、にぎわいと魅力を生み出している。

中心市街地や地域の拠点が整備され、買い物や交流、仕事の場として活気があふれています。

③ 郊外も、暮らしやすさが守られている。

公共交通や生活道路の確保、そしてスマートシティ政策の推進により、多様な住まいを選べる環境が整っています。

④ 公共インフラが、未来に向けて賢く管理されている。

道路や橋、水道管などが計画的に整備・維持管理・更新され、持続可能で安全なまちになっています。

【姿のもとになった市民の声】

- 子どもと一緒に路面電車に乗っている時に、一緒に車窓を眺めることが好きなので、将来孫とも乗りたいです。マイカーでは体験できない贅沢だと思います。(オンラインプラットフォーム「とやまトーク」)
- 富山市中心部に拠点を集中させることで市民にとって生活しやすい環境をつくり、その他の場所は放置するのではなく、その地域の自然の豊かさや伝統を引き継いでいくことが出来れば良いと思う。(富山市都市マスタープラン／高校3年生WEBアンケート調査)
- 運転することができないこどもやお年寄りにとって住みやすい富山になってほしいです。(こども意見表明交流会)
- 地区センターなど1つのところに、地域の施設がコンパクトにまとまっていると良い。(富山県未来共創セッション)



2036年
市民の
幸せ実感

「もしもの時」を想定内に。
「備え」で守る、身近な幸せ。

幸せを実感できる未来スケッチ

① 市民が、災害のときに落ち着いて避難し、命を守っている。

市民自らが日頃の訓練と備えで培った正しい知識により、いざという時も迷わず落ち着いて行動できるようになっています。

② 地域の人が互いに声をかけ合い、事故や犯罪の少ないまちで安心して暮らしている。

除雪や見守りといった地域の活動にやりがいを感じながら助け合い、警察とも連携しながら防犯意識が高まり、子どもから高齢者まで安心して過ごせています。

③ 道路や建物が災害に強く、いざという時に対応できる安心なまちになっている。

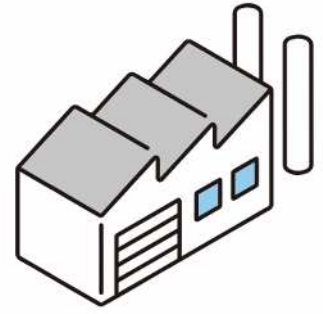
公共施設・インフラの耐震化等により、まちの強靭化が進み、災害時も安心で、普段も安全に暮らせています。

④ 消防・救急の体制が整い、いざという時にすぐ駆けつけてもらえる。

もしもの時に確実に対応してくれる消防や救急などの体制や、市民による応急手当の技術により、市民が安心して暮らせています。

【姿のもとになった市民の声】

- 令和6年能登半島地震では、津波に対する知識不足や、避難所運営における課題が見つかった。これを活かして今後に備えるべき。(能登半島地震における課題等についてのアンケート調査)
- 自分の住む地域は地域で守るため、実践・行動を考えていきたいです。(富山市スマートシティ推進ビジョン／市民ワークショップ)
- 安全安心な暮らしのためには、地域の全ての世代が連携すべきだと思います。(富山市スマートシティ推進ビジョン／市民ワークショップ)
- 歩行者・自転車・自動車がぶつかる危険のない、安全な道路になってほしい。(オンラインプラットフォーム「とやまトーク」)

2036年
市民の
幸せ実感富山でなら、挑戦できる。
働かって、幸せ。

幸せを実感できる未来スケッチ

① 産業が、稼ぐチカラを高めている。

DX推進などにより企業が生産性を高めつつ、地域資源や先端技術を生かした新しい産業も生まれ、全国から企業や人材が集まっています。

② 人材が、未来を担う力を身につけている。

次世代を担う若者が、富山の産業を知ることによって、地元への愛着が育まれています。さらに専門教育や産学官連携により、若者や働く世代がスキルを磨いています。

③ 多様な人材が、様々な働き方で活躍している。

男性・女性、若者・高齢者、障害者、外国人など、誰もがそれぞれに合った環境で安心して働いています。

④ 多くの人々が、富山で就職や創業し、活き活きと働いている。

UIターン就職や創業にチャレンジしやすい環境づくりが進み、まちに新しい活力がもたらされています。

【姿のもとになった市民の声】

- ・ 仕事と家庭の両立がしやすい、働きやすい職場が増えるといいな。(オンラインプラットフォーム「とやまトーク」)
- ・ 障害者も一緒に働ける場所、企業がたくさんあるようになることを望みます。(富山市スマートシティ推進ビジョン／市民ワークショップ)
- ・ 年を取っても生き生きと働ける社会になってほしい。(富山県未来共創セッション)
- ・ 新しい事業も起こしやすく、他県からも移住している人が増えている富山になってほしい。(富山県未来共創セッション)

2036年
市民の
幸せ実感富山湾から立山まで。
とやまの恵みで稼げるって、幸せ。

幸せを実感できる未来スケッチ

① 農業が、多彩な作物を育み、食卓と地域を支えている。

スマート農業や有機農業、高収益作物により、持続的で魅力ある農業が広がっています。

② 林業が、森を守りながら地域を潤している。

森林整備と市産材の活用により、環境保全と地域経済の両立が進んでいます。

③ 水産業が、富山湾の恵みで全国の人を楽しませている。

漁業の効率化により生産性が向上し、PR強化により魚介類のブランド力が高まっています。

④ 都市と農山漁村が、交流で結ばれている。

農業体験や都市住民との交流などを通じて、人と地域が結びつき、担い手の確保につながっています。

【姿のもとになった市民の声】

- ・ 全国に誇れる、野菜や果物をつくってほしい。(オンラインプラットフォーム「とやまトーク」)
- ・ 地元の新鮮な食材が、気軽に入手できるようになっていると良い。(富山市スマートシティ推進ビジョン/市民ワークショップ)
- ・ 富山湾で獲れる魚を使ったお寿司が富山市の魅力。外国人観光客にもっと富山の魚のおいしさをPRしていくべき。(富山市都市マスタープラン/高校3年生WEBアンケート調査)
- ・ 山と触れ合って山菜を採ったり、ハイキングに行ったりするようなライフスタイルが根付くと良いと思う。(富山県未来共創セッション)

2036年
市民の
幸せ実感

わたしたちの行動が、未来を変える。
守るべき環境があるって、幸せ。

幸せを実感できる未来スケッチ

① 豊かな自然が、美しいまちと調和している。

森里川海の豊かな自然環境が保全され、身近に自然を感じながら心地よく暮らせるまちを実現しています。

② まちが快適で、清潔な生活環境が守られている。

環境の管理が徹底され、まちを汚さないための取組が進んでいます。空き家や空き地が適切に管理され、清潔で健康的な環境が守られています。

③ ごみが減り、資源が循環している。

市民の環境リテラシー向上により分別とリサイクルがさらに進み、ものを大切に使う暮らしが広がっています。市民・企業・行政が協力し、サーキュラーエコノミーの取組が進んでいます。

④ 太陽や水のエネルギーが、まちを動かしている。

太陽光や小水力などの再生可能エネルギーが暮らしに溶け込み、省エネな生活と合わせてゼロカーボンシティに近づいています。

【姿のもとになった市民の声】

- ・ 緑がもっと増えて、リラックスできる空間が広がるといいな。(オンラインプラットフォーム「とやまトーク」)
- ・ リサイクルや循環が進んでいる素晴らしい富山になってほしい。(富山県未来共創セッション)
- ・ 子どもたちへ、水や環境を守るための環境教育を進めてほしい。(富山県未来共創セッション)
- ・ 無駄なゴミを出さず、電気を大切に使うことを心がけたい。そして水力発電や太陽光発電で生まれる電力を、次の世代にも使ってもらいたいです。(富山市次世代エネルギーパーク見学ツアー／アンケート)

2036年
市民の
幸せ実感10年後も「行くべき都市」。
世界中から人が来るって、幸せ。

幸せを実感できる未来スケッチ

① 世界からの旅行者が、まちなかと山・海を回って長く滞在している。

インバウンド観光の充実で、都市と自然の両方を楽しめる滞在型観光が広がっています。

② 国際会議や交流イベントが、仕事と観光のにぎわいを広げている。

MICE誘致や大規模イベントで人が集まり、交流と経済の好循環が生まれています。

③ 市民と来訪者が、ガラスや食など富山ならではの体験を楽しんでいる。

「すしのまちとやま」「ガラスの街とやま」や富山の食・くすりなど、富山の文化を活かした体験型観光が定着しています。

④ 富山を何度も訪れる人が増え、地域と深くつながっている。

季節を変えて通うリピーターや二地域居住者が増え、関係人口が着実に拡大しています。

【姿のもとになった市民の声】

- ・ 海や川など、富山の水辺は都会にはない美しさがあると思います。これを活かしてほしいです。(オンラインプラットフォーム「とやまトーク」)
- ・ 富山の食を目当てに、海外からたくさんの人たちが来てほしい。(富山県未来共創セッション)
- ・ 人とのつながりが新しいつながりを生むようになってほしい。(富山市スマートシティ推進ビジョン／市民ワークショップ)

2036年
市民の
幸せ実感

アートが息づく日常がある。
「本物」が身近にあるって、幸せ。

幸せを実感できる未来スケッチ

① 富山の文化と芸術が、世界へ響き渡っている。

富山のガラスや音楽・舞台芸術が世界中から注目を集め、国際的な文化都市としての存在感を高めています。

② 文化が、産業や観光、まちづくりと結びついている。

富山の歴史・文化・芸術を商業・観光と融合させ、新たな産業や都市の魅力を育てています。

③ 市民が、日常の中で芸術を楽しんでいる。

音楽や舞台芸術、美術などに触れる機会が身近にあり、誰もが気軽に創作や鑑賞を楽しんでいます。

④ 富山の歴史と伝統が、大切に受け継がれている。

歴史的建造物や伝統芸能などの文化遺産を保存・活用し、まちの誇りとして次世代につないでいます。

【姿のもとになった市民の声】

- ・ 富山のまちなかが、芸術であふれるようなまちづくりをしてほしい。(オンラインプラットフォーム「とやまトーク」)
- ・ 好きな事に興じられる、共通の仲間といつでも会えるといいなと思います。(富山市スマートシティ推進ビジョン／市民ワークショップ)
- ・ 10年後、富山が誇るべき文化・伝統行事が残っていてほしい。(富山県未来共創セッション)

背景に富山市の風景などの写真を挿入

3 富山市の暮らしを支える都市のかたち

「将来の都市像」や「分野別のありたい姿」の実現には、その取組を支える都市構造の方向性を、共通の認識として整理することが不可欠です。人口減少や財政制約が進む中、本市が持続的に機能し続けるための「コンパクトなまちづくり」を基本構想に位置付けます。

公共交通を軸とした都市の再構築による 拠点集中型のコンパクトなまちづくり

基本的な考え方

—お団子と串の都市構造—

本市では、これまでも少子高齢化と人口減少に対応するため、「鉄軌道をはじめとする公共交通を活性化させ、その沿線に居住、商業、業務、文化等の都市の諸機能を集積させることにより、公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくり」を推進してきました。

コンパクトなまちづくりは、市中心部(都心地区)の一極集中型の都市構造ではなく、既存の鉄軌道やバス等の公共交通を生かしながら、さらなる活性化を図るとともに、駅やバス停の徒歩圏での居住と生活に必要な機能の集積を促進し、徒歩圏(お団子)を公共交通(串)でつなぐことにより、市街地の外延化を抑制し、自動車を自由に使えない市民も、日常生活に必要な機能を享受できる生活環境を形成する、徒歩圏(お団子)と公共交通(串)から成るクラスター型の都市構造を目指すものです。こうしたコンパクトなまちづくりの推進は我が国を代表する都市経営モデルのひとつとして評価され、多くの自治体から参考にされています。

これからの本市においては、人口だけでなく世帯数も減少する本格的な人口減少時代を迎えるため、既成市街地での空き家や空き地の増加、担い手の不足などが市民の生活環境を悪化させる恐れがあります。

こうしたことから、「市街地の外延化や低密度化」と「都市管理コストの上昇」を抑制することに加え、「魅力ある地域資源を活かした公共交通の沿線や拠点の機能と魅力の向上」を市民とともに推進するため、公共交通の利便性向上と公共交通沿線への居住推進、既成市街地を活用したまちの魅力向上、都心をはじめとした各地域の多様な拠点づくり、身近な生活交通の確保などを進めることが求められます。

将来都市構造

市域全体における広域的な拠点を「都心地区」とするとともに、市民の日常生活に必要な機能が身近な地域で提供されるよう、市域を「地域生活圈域」に分割し、都心地区以外の「地域生活圈域」には「地域生活拠点」を配置する都市構造を今後も維持・強化します。

加えて、空き家や空き地の増加などに対応するため、既成市街地の土地や建物、公共交通や道路・公園などのインフラ、既存の都市機能や各地域資源、自然環境などの都市アセット(資産)を最大限に活かす「都市の再構築」の視点を取り入れます。

このように、公共交通の活性化とその沿線に居住、商業、業務、文化等の都市の諸機能の集積を図るコンパクトなまちづくりを継続するとともに、都市の資源や各地域の魅力を最大化する拠点の形成や既成市街地の利活用を推進し、多様な魅力のある色付けされたお団子と使いやすい串が機能するコンパクトな都市構造を目指します。

都市の再構築によるお団子と串の都市構造
使いやすい「串」: 利便性や質の高い公共交通
色付けされた「お団子」: 串で結ばれた特色ある徒歩圏

